

2017 年度事業報告案

1. 事業報告全般	1
1.1. 全般.....	1
1.2. 2017 年度役員および担当.....	1
1.3. 会員異動.....	2
1.4. 総会.....	2
1.5. 理事会.....	3
2. 事業活動	5
2.1. 会誌刊行事業.....	5
2.1.1. 会誌編集委員会.....	5
2.1.2. 会誌経営委員会.....	7
2.2. 普及研修事業.....	8
2.2.1. 研修委員会.....	8
2.2.2. シンポジウム実行委員会.....	8
2.2.3. 試験実施委員会.....	9
2.2.4. 広報活動(広報委員会).....	9
2.2.5. パテントドキュメンテーション委員会.....	10
2.2.6. 西日本委員会.....	10
3. その他委員会・プロジェクト活動	11
3.1. 表彰者選考委員会.....	11
3.2. 諮問委員会.....	11
3.3. 著作権活動(著作権委員会).....	11
3.4. 標準化活動(標準化委員会).....	12
3.5. 新規事業プロジェクト.....	12
3.6. ホームページコンテンツ・プロジェクト.....	12
4. 研究会活動	13
4.1. 日本オンライン情報検索ユーザー会 (OUG).....	13
4.1.1. 化学分科会.....	13
4.1.2. ライフサイエンス分科会.....	13
4.1.3. 特許分科会.....	14
4.2. 専門部会 (SIG).....	15
4.2.1. 技術ジャーナル部会.....	15

4.2.2.	パテントドクメンテーション部会	15
4.2.3.	分類/シソーラス/Indexing 部会	16
4.2.4.	ターミノロジー部会	16
4.3.	3i研究会	17
5.	調査・受託事業	18
5.1.	ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務	18
5.2.	その他の委託業務	18
6.	関連団体との連携	18
7.	事務局	19

1. 事業報告全般

1.1. 全般

2017年度は収入、支出ともに減少し結果としては3,963,017円の黒字となったが、残念ながら安定した協会運営が可能な水準には達していない。支出の減は、事務所費（家賃・通信）、職員給与といったところが大きな要因である。

また、正会員と会誌購読者の減少は引き続き進行しており、今後の運営には一層の厳しさが予想される。

このような財政上の問題にも拘らず、会誌刊行事業、出版事業、普及研修事業（講習会、シンポジウム、検索技術者検定）、部会・研究会活動、受託事業等、全体的に充実した事業を推進することができたのは会員各位、特に理事、委員会関係者、その他の皆様の貢献によるものと感謝している。

本年度の主な実績は次の通りである。

- ・ 会誌刊行事業については、前年に引き続き、会誌編集委員会の企画による特集テーマを核として、安定した定期発行を達成した。
- ・ 研修事業については研修委員会や西日本委員会により企画・推進が行われ、会員の注目するセミナー、見学会を実施した。
- ・ 第14回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO 2017）を協会主催で2017年11月30日～12月1日の2日間、JST東京本部別館で開催した。参加者数は伸び悩んだが、特別講演、トーク&トークのテーマはAIを中心とした統一感があり、収支も改善された。これには、スポンサーからの収入が大きく貢献した。
- ・ 検索技術者検定試験については、受験者数が減少した。これは、2級、3級を問わず起こった現象である。
- ・ 部会・研究会活動については、OUG（4分科会）、SIG（5部会）のそれぞれの分科会、部会における活動が継続して行われた。3i研究会はJSTの協力のもと、多くの資源協力機関を得て第5期の活動が行われた。第5期は東京3グループ、大阪1グループが活動しており、2018年7月のシンポジウムで研究成果を発表する予定である。第4期の成果についてはINFOPRO 2017シンポジウムで発表された他、2018年度の会誌に論文が順次掲載されている。

1.2. 2017年度役員および担当

2017年度役員一覧(50音順)

	氏名	担当職務
理事(東日本)	青柳 英治	研修(正)
	小河 邦雄	試験実施(副)
	長田 孝治	副会長、運営部会
	川村 剛	パテントドキュメンテーション(PD)
	木本 幸子	会誌
	佐藤 京子	副会長、運営部会

	角田 裕之	シンポジウム(正)
	戸塚 隆哉	専務理事、運営部会
	原田 智子	試験実施(正)
	松下 茂	広報、著作権、運営部会
	宮澤 彰	標準化、OUG・SIG
	屋ヶ田 和彦	3i 研究会(正)
	安平 進	新規事業(副)
	山崎 久道	会長、運営部会
	吉井 隆明	新規事業、研修(副)、運営部会
	吉野 敬子	シンポジウム(副)、3i 研究会(副)
理事(西日本)	中江 貴彦	西日本
	森 美由紀	西日本
	矢崎 美香	西日本
	山田 瑞穂	西日本
監事	清水 美都子	-
	三澤 一成	

出版委員会は休会。

諮問委員(東日本地区)

小山 憲司、田口 宣行、田中 早苗、百瀬 研一、柳 一美、米澤 稔、藤井 昭子

諮問委員(西日本地区)

岡 紀子、田中 邦英、永石 弓子

1.3. 会員異動

種別	2016 年度末	入会	退会	増減	2017 年度末
維持会 員	50	2	3	-1	49
特別会 員	68	1	0	+1	69
正会 員	870	39	70	-31	839
準会 員	9	0	0	0	9
合計	997	42	73	-31	966

1.4. 総会

第60回定時社員総会は、2017年6月23日に開催された。

議題

1. 定款一部変更の件（審議）
2. 2016年度事業報告および決算報告（審議）
3. 2017年度事業計画および予算案（報告）
4. 2017～2018年度役員選挙
5. 第42回情報科学技術協会賞表彰
 - 情報業務功労賞 棚橋佳子殿、松下 茂殿
 - 教育・訓練功労賞 望月聖子殿
 - 協会事業功労賞 小田島互殿
 - 優秀機関賞 ライフサイエンス辞書プロジェクト（代表 金子周司殿）
6. 名誉会員推挙
大島輝夫殿、山川隆司殿

1.5. 理事会

2017年度理事会は下記の議題で、5回開催された。

なお、今回から理事会の年度開催毎報告に移行するため、昨年の事業報告に記載のない2016年度第6回理事会（2017-5-11）も記載する。

- 2016年度第6回理事会（2017-5-11）
 1. 2016年度事業報告（審議）
 2. 2016年度決算報告（審議）
 3. 2017年度予算の修正（審議）
 4. 第5回理事会議事録について（審議）
 5. 総会準備状況について
 6. 次期役員選出について
 7. 中期経営計画について
 8. その他の状況報告
 9. その他

- 2017年度第1回理事会（2017-7-14）
 - 【審議事項】
 - (1)2017年度代表理事、会長、副会長及び専務理事の選出について
 - (2)2017年度理事担当職務について
 - (3)交通費支給基準の変更について
 - (4)内規新規&改訂案
 - (4-1)新任時のお知らせ文書
 - (4-2)ホームページ運用規程
 - (4-3)シンポジウム実行委員会規程
 - (4-4)3i研究会規定
 - (4-5)旅費規程
 - (5)その他
 - 【報告事項】
 - (6)社員総会報告

- (7) 中期経営計画:これまでの推移と 2016 年度執行部の提言(報告)
- (8) 理事会手順書(プロセス)の説明
- (9) 夏期休業日の決定について (夏休みは 8 月 10 日～16 日を予定)
- (10) 理事が行う取引についての申し合わせ
- (11) 外部理事の賠償責任限定に関する契約の締結について
- (12) その他

- 2017 年度第 2 回理事会 (2017-11-15)

- 【審議事項】

- (1) 検索技術者検定 2 級用テキストの新規出版に関する企画について
 - (2) Infopro2018, 2019 の計画について
 - (3) ホームページ保守契約について
 - (4) 内規・手順書見直しについて
 - (4-1) 情報公開規程 (新規)
 - (4-2) 非会員旅費規程 (新規)
 - (4-3) 運営部会内規 & 手順書 (プロセス) 運営部会 Ver. 2 (改訂)
 - (5) その他

- 【報告事項】

- (6) 新規事業の検討状況について
 - (7) Infopro2017 進捗報告
 - (8) 著作権に関連する声明への参加(日薬連よりの依頼)
 - (9) 予算執行状況について
 - (10) 職務執行報告
 - (11) 標準化委員会の今後について
 - (12) その他

- 2017 年度第 3 回理事会 (2018-2-2)

- 【審議事項】

- (1) 社員総会日程について
 - (2) infopro2018 について
 - (3) 検定試験日程について
 - (4) 検定試験 3 級テキストについて
 - (5) 全国図書館大会の共催について

- 【報告事項】

- (6) 予算進捗状況
 - (7) 各理事担当業務報告
 - (8) 事務局報告
 - (9) 職務執行報告
 - (10) その他

- 2017 年度第 4 回理事会 (2018-3-27)

- 【審議事項】

- (1) 2018 年度事業計画案と予算案
- (2) 次期役員候補者について
- (3) 規定等の改定、新設について
 - ① 「入会金及び年会費に関する規程」、
 - ② 「ホームページ運用規程」、
 - ③ 「I S O国内審議委員会運営規程（案）」
- (4) 会誌編集委員会「チャットワークスの導入について」
【報告事項】
- (5) 2017 年度収支状況報告
- (6) 職務執行状況報告
- (7) 事務局職員の退職について
- (8) 『情報の科学と技術』への投稿と執筆に関する規定等の改定について
- (9) その他

● 2017 年度第 5 回理事会（2018-5-16）

【審議事項】

- (1) 2017 年度事業報告案
- (2) 2017 年度決算案

【報告事項】

- (3) 2019infopro シンポジウム進捗状況
- (4) 専門図書館協議会全国研究集会への後援について
- (5) その他

2. 事業活動

2.1. 会誌刊行事業

2.1.1. 会誌編集委員会

2017 年度も安定した刊行（毎月 1 日発行）を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度もインフォプロの関心領域から様々な話題のトピックを取り上げることができた。特集テーマの検討に際しては、図書館分野に偏らないことを意識し、当協会の事業と関連する「特許情報と人工知能（AI）」（7 月号）や「データベースの設計、構築、活用」（9 月号）を特集する一方、「IoT：モノのインターネット」（11 月号）や「意匠権・商標権」（2 月号）など、幅を広げるような特集の構成を取ることができたと言える。

例年どおり、他の委員会と連携した特集を刊行した。パテントドキュメンテーション委員会からは特集内容の企画検討、編集において全面的な協力を頂き、「特許情報と人工知能（AI）」（7 月号）を発行することができた。読者に有益な情報を届けるためにも、これらの連携企画については継続して実施したいと考えている。「つながるデータ」（12 月号）では巻頭座談会を企画し、編集委員による司会のもと、当該分野の第一人者による最先端の議論を記事として掲載することができた。「図書館の人材育成」（8 月号）等ではコラム形式での記事を活用し、読者にとって読みやすく、また幅広いトピックを扱えるような雑誌作りを指向した。

規則や運営体制面では、原稿執筆の手引きや投稿規定などを現状に即して見直し、2017年9月1日付での改訂を行った。また、図書館系に偏っていた委員構成を見直し、企業系の編集委員数を増強した。さらに、効率の良い編集作業を実現するため、オンラインツールの導入を検討した。

【特集】

年	号	特集タイトル
2017	4月号	研究評価
2017	5月号	第13回情報プロフェッショナルシンポジウム
2017	6月号	海外における日本研究
2017	7月号	特許情報と人工知能 (AI)
2017	8月号	図書館の人材育成
2017	9月号	データベースの設計、構築、活用
2017	10月号	情報リテラシー教育のいま
2017	11月号	IoT：モノのインターネット
2017	12月号	つながるデータ
2018	1月号	拡散する「図書館」
2018	2月号	意匠権・商標権
2018	3月号	大学における Institutional Research

特集原稿及び連載以外の記事としては、会員からの投稿記事を3本、書評を9本掲載した。また以下の連載記事等が掲載された。

【連載・コラム】

- ・INFOSTA Forum (継続連載中)
- ・ユージーン・ガーフィールド博士の人と業績 (2017年9月号～2018年1月号)

【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2016-04-06	定例委員会	協会会議室
2	2016-05-11	定例委員会	協会会議室
3	2016-06-11	定例委員会・企画会議	協会会議室
4	2016-07-06	定例委員会	協会会議室
5	2016-08-03	定例委員会	協会会議室
6	2016-09-07	定例委員会	協会会議室
7	2016-10-05	定例委員会	文京シビックセンター
8	2016-11-02	定例委員会	文京シビックセンター
9	2016-12-03	定例委員会・企画会議	文京福祉センター江戸川橋
10	2017-01-11	定例委員会	文京シビックセンター
11	2017-02-01	定例委員会	文京区民センター
12	2017-03-01	定例委員会	文京シビックセンター

この他、会誌経営委員会には引き続き2名の委員が参画し、多様な視点から会誌の在り方等について検討を進めるとともに、投稿の手引き改訂、J-STAGE上でのお勧め記事掲載及びアクセス解析といった面で緊密な連携のもと具体的な活動を行っている。また、会誌編集委員会では会誌編集協力員(2017年3月現在3名)を置いており、電子メール、企画会議への参加を通じてコメントをいただき、実務視点に捉われない多角的な情報の把握に努めている。

2.1.2. 会誌経営委員会

会誌経営委員会は、会誌編集委員会、事務局と連携して、会誌に関わる諸業務の健全な運営のための施策、記事構成に関する方針の作成、特集以外についての具体的な記事内容の提案、読者増加に向けての施策など、の策定と実施の監督を行うことを任務とする。2017年度は、事業計画に基づいて以下のように活動した。

(1) 会誌に対する読者、会員の要望の誌面への反映

J-STAGEアクセス統計から、記事の読まれ方を調査・分析するとともに、2017年11月にリリースしたJ-STAGEの新画面機能を用いて、おすすめ記事の掲載等読者を引きつける試みを行った(会誌編集委員会の協力による)。しかし、事業計画に述べたアンケート等によるニーズ把握を行うには至らなかった。

(2) 会誌における新たな企画の検討

連載として「ユージーン・ガーフィールド博士の人と業績」(2017年9月号～2018年1月号に掲載)と「オープンサイエンスのいま」(2018年4月号から掲載)を企画した。この他いくつかの企画を検討中である。また、会誌の紙面構成・レイアウトの改善について検討し、2018年4月号以降から実施予定である。

(3) 会誌に関わる著作権上の問題の審議

著作権委員会からの提言を踏まえ、会誌記事の「紙面から紙面への複製」の権利を著者からの許諾により協会が行使できるよう規定を改定し、2018年1月号の記事から実施した。2017年以前の記事の著者への個別許諾依頼について検討中である。

(4) 会誌の中長期的な位置づけ

本委員会で重点的に検討する事項について議論し、その中で特に電子雑誌、電子記事の提供について検討している。本誌の位置づけ、あり方については未だ検討に至っていない。

【委員会開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2017-04-26	連載企画、著作権規定改定、重点検討事項	協会会議室
2	2017-09-07	連載企画、重点検討事項、委員長交代	協会会議室
3	2017-10-18	連載企画、重点検討事項、J-STAGE新画面対応	協会会議室
4	2017-12-12	連載企画、電子版提供、会誌構成・レイアウト、J-STAGEアクセス増の検討	協会会議室
5	2018-02-20	電子版提供、会誌構成・レイアウト、執筆要項改定、複製権許諾	協会会議室

2.2. 普及研修事業

2.2.1. 研修委員会

①委員会開催状況

以下の日程で開催した。

2017-04-13, 2017-06-13, 2017-08-22, 2017-10-23, 2017-12-13, 2018-02-20

②活動状況

2017-09-15 ビブリオバトル入門（日本図書館協会会館）14名

2017-11-14 INFOSTA 維持会員限定セミナー 電気電子工学系特許情報データベース新製品勉強会（日本図書館協会会館）12名

2018-01-19 INFOSTA 会員限定新春セミナー 人生を左右する「決断」を支援する情報検索・人工知能システム ～不動産物件探し・介護施設探しのプロセスにみる課題～（日

本図書館協会会館）26名

2018-03-05 INFOSTA セミナー Web を活用した図書館サービスー Web API 活用術ー（ヴィアックス研修センター）11名（定員15名）

2.2.2. シンポジウム実行委員会

①委員会開催状況（2017年4月～2018年3月）

第1回シンポジウム実行委員会 2017年5月22日(18:30-21:15)

第2回シンポジウム実行委員会 2017年7月24日(18:30-20:30)

第3回シンポジウム実行委員会 2017年10月4日(18:30-21:00)

第4回シンポジウム実行委員会 2018年1月15日(18:30-21:00)

第1回シンポジウムプロジェクトチームA 2018年2月19日(18:30-21:00)

第2回シンポジウムプロジェクトチームA 2018年3月26日(18:30-21:00)

②活動状況

第14回情報プロフェッショナルシンポジウム(INFOPRO 2017)を国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の協力により2017年11月30日～12月1日にJST東京本部別館(K's五番町)で開催した。

特別講演(「自然言語処理と知的創造」武田浩一氏(名古屋大学大学院情報学研究科価値創造研究センター教授))、トーク&トーク(「人工知能(AI)とインフォプロのイイ関係」コーディネーター:林和弘(科学技術・学術政策研究所)、安藤聡子(クラリベイト・アナリティクス)、川越康司(富士通総研)、話題提供者:山口高平氏(慶應義塾大学理工学部管理工学科教授))、および、一般発表19件、3i研究会発表5件で、参加者総数は224名(前年比99.6%)であった。また、広い範囲の発表を期待してポスター発表6件、情報関連企業・機関の協力を得て展示コーナー5件とプロダクト・レビュー10件があった。

今後の開催となる第15回(2018年度)及び第16回(2019年度)の実施時期と方法について、シンポジウムプロジェクトチームを編成して検討を開始した。

2.2.3. 試験実施委員会

① 委員会開催状況

- ・ 158回 (2017-04-27) 分科会メンバーの確定、公開解答例確認、受験案内確認等
- ・ 159回 (2017-05-29) 受験者増加対策、分科会人選方法の検討等
- ・ 160回 (2017-06-29) テキスト正誤表作成の検討、大学向け無料セミナー開催検討の報告等
- ・ 161回 (2017-07-31) 理事会報告、テキスト正誤表の公開、分科会人選方法検討、分科会進捗状況確認等
- ・ 162回 (2017-09-12) 受験申込状況、作問チェックの方法確認、分科会人選方法検討等
- ・ 163回 (2017-10-19) 紀伊國屋書店セミナー報告、新2級テキスト作成検討報告、分科会の進捗状況確認、合否判定スケジュールの検討、分科会人選方法検討等
- ・ 164回 (2017-12-13) 3級合否判定、2017年度検索技術者検定実施報告、1級二次試験(面接)マニュアルの見直し、分科会人選方法検討等
- ・ 165回 (2018-01-11) 1級一次合否判定、面接官用マニュアルの確認と修正、2018年度試験日程の確認、新3級テキストの作成等
- ・ 166回 (2018-01-24) 2級合否判定、分科会人選等
- ・ 167回 (2018-02-13) 1級二次合否判定、分科会体制の検討、公開解答例進捗等
- ・ 168回 (2018-03-22) 分科会人選、新テキスト作成進捗、意見交換会総括等

②活動状況

- ・ 分科会メンバーの人選検討：
1年間を通じて行っているが、非常に厳しい状況である。分野（ビジネス、ライフサイエンス、化学、特許、総合）別に作問者をそろえるには、候補者が少ない。作業負荷が大きい、交代できず無理して継続していただいているメンバーもいる。
- ・ 委員会以外の活動：
 - 試験実施委員会と分科会の意見交換会 2/27(火)開催 12名参加
 - 合格者を祝う会 東京：3/9(金)、大阪：3/3(土)開催 計28名参加
 - 2018年度分科会メンバーの選定等を含めた INFOSTA としての検討
 - これ以外に、2級、3級テキストの内容を刷新するために、樹村房での発行を前提に、新規にテキストの作成を開始した。(2級6月末刊行、3級8月刊行を目標)

2.2.4. 広報活動(広報委員会)

① 委員会開催状況

- ・ 2017年度第一回委員会 4月13日(木) 18:30~20:30
- ・ 2017年度第二回委員会 6月14日(水) 18:30~20:40
- ・ 2017年度第三回委員会 9月12日(火) 18:30~20:40
- ・ 2017年度第四回委員会 11月16日(水) 18:30~20:20
- ・ 2017年度第五回委員会 1月23日(火) 18:30~20:20

②活動状況

委員会活動は大変活発に行われており、委員会も定期的な開催が行われている。

主に下記の活動が行なわれている。

広報関連資料作成（新二折り協会リーフレット作成、広報用A4両面リーフレット修正、名刺サイズTwitter 広報宣伝物の制作）

関連団体（日本薬学図書館協議会、日本医学図書館協会、日本病院ライブラリー協会等）の総会・研修会等の会合、および、サンメディア学術ソリューションセミナーでの広報用A4両面リーフレットの配布（または設置）

ホームページ改定、ホームページコンテンツ・プロジェクトへの協力

Twitter による INFOSTA 各行事やシンポジウムの広報を適宜発信

日本図書館協会全国大会（10月）への出展参加

同大会向けの準備委員会及び来年度開催のための委員会に委員を派遣

2018年度開催の INFOPRO シンポジウム実行委員会に委員を派遣

今後の計画等：

- ・引き続きホームページコンテンツ・プロジェクトに協力してホームページ改定への検討と提案を行う。
- ・引き続き Twitter による広報を継続する。
- ・効果的な広報宣伝物の改良提案や作成を行う。

2.2.5. パテントドキュメンテーション委員会

①委員会開催状況

2017年は各委員の業務等の都合により委員会の開催は行わなかった。

現在は、メーリングリストにて連絡を行っている。

②活動状況

『情報の科学と技術』67巻7号 特集「特許情報と人工知能(AI)」について、委員会主導で企画案の作成～執筆者の手配等を行った。

今後の計画等：

『情報の科学と技術』68巻7号について、メーリングリストにて連絡を行っている。今後の委員会自体の活動計画を検討する。

委員会メンバーがここ数年間固定化され、新しいメンバーが入らない状態が続いている。各委員の環境の変化もあり、委員会の解散などを含め、今後の方針を検討して頂きたい。また、特許特集号の編集は2018年をもって、一旦終了したい。

2.2.6. 西日本委員会

①委員会開催状況

2017-04-21：第185回西日本委員会（大阪市立難波市民学習センター）

2017-06-23：第186回西日本委員会（大阪市中央公会堂）

2017-08-04：第187回西日本委員会（大阪市中央公会堂）

2017-10-06：第188回西日本委員会（大阪市立難波市民学習センター）

2017-11-24：第189回西日本委員会（大阪市中央公会堂）

2018-02-27：第190回西日本委員会（大阪市立総合生涯学習センター）

② 活動状況（理事会に報告すべき事項）

2017-07-10：「図書館総合展 2017 フォーラム in 熊本」チラシ配布

2017-09-02：3 級対策セミナー

2017-09-09～11：「大学図書館問題研究会全国大会」チラシ配布

2017-09-16～17、2017-10-01（台風による再講習日）：サーチャージャー講座 21

2017-10-20：近畿大学・アカデミックシアター見学会

2017-11-24：情報と人をつなぐ じょいんと懇話会

2018-03-03：合格を祝う会

3. その他委員会・プロジェクト活動

3.1. 表彰者選考委員会

2018年4月2日（月）に第43回（2018年）表彰者選考委員会を開催。以下の各賞が理事会で承認された。

○情報業務功労賞

増田 豊氏(ユサコ)

宮澤 彰氏(国立情報学研究所名誉教授)

○教育・訓練功労賞

鈴木 尚志氏（(株)三菱化学テクノロジーサーチ）

○研究発表賞

該当なし

○優秀機関賞

医学情報サービス研究大会（MIS）(<http://mis.umin.jp/35/>)

○協会事業功労賞

中村 栄氏(旭化成（株）研究・開発本部知的財産部、3i 研究会初代アドバイザー)

○名誉会員

妹尾 哲男氏(元松下電器産業)

長谷川 正好氏(元帝人)

○永年会員

鈴木 博道氏(元国際医学情報センター)

石塚 英弘氏(筑波大学名誉教授)

3.2. 諮問委員会

2018年4月4日に、「INFOSTAによる「検索技術者検定」試験の今後の展開について」を諮問事項として、諮問委員6人の出席により開催した。会長、副会長、試験実施担当正副理事が同席した。

3.3. 著作権活動（著作権委員会）

① 委員会開催状況

各委員が多忙であるため、審議事項についてはメールで確認を行なっている。

② 活動状況

- ・ 会誌の著作権のあり方や複製許諾のあり方について、会誌経営委員会で基本的な方向をご検討いただけるよう依頼を行う。
- ・ 山崎会長を通じて日薬連から要請のあった「著作権法改革により日本を元気にすることを提案します」への賛同について、委員会で協議して賛同が適切であることを会長に報告。

3.4. 標準化活動(標準化委員会)

① 委員会開催：2回（2018年1月10日，3月19日）

② 活動状況

- (1) 事業方針の策定：1) 国際標準化 ISO/TC37 および TC46 の国内審議団体引き受け，2) JIS 策定，見直しへの協力，3) 協会独自の標準化活動を柱とする。
- (2) ISO/TC37，ISO/TC46 の国内審議団体の事務局としての活動をサポートした。TC46 分野では，ISO 20247 国際標準図書館資料識別子が発行段階になった。
- (3) TC37，TC46 分野において新規国際標準開発の提案を経済産業省に対し行った。このうち TC46 分野のものは不採択という結果になった。
- (4) JIS X 0902-1:2005 記録管理および JIS X 0305:2019 国際標準図書番号（ISBN）改正について日本規格協会の JIS 公募制度に応募した。JIS X0902-1 は採択された。JIS X0305 については審査待ちである。
- (5) ISO/TC37 および TC46 国内審議委員会運営規定を整備した。
- (6) 委員長の交代：宮澤委員長が担当理事となったことにともない，来年度から山本昭委員を委員長とすることを了承した。

3.5. 新規事業プロジェクト

活動状況

- ・ 2018年1月9日にて、日本医学図書館協会、医学中央雑誌刊行会の方々と、医療系検索試験・セミナーなどの協力的な関係を築くことができないか、キックオフ意見交換会を行った。
- ・ 参加者は、先方の河合富士美専務理事ならびに関係者3名（児玉閲様、諏訪部直子様、宇佐見由美様）、医学中央雑誌刊行会の三沢一成様、松田真美様および当協会からは山崎久道会長・吉井隆明・安平進が参加。

3.6. ホームページコンテンツ・プロジェクト

- ・ 協会のホームページ (<http://www.infosta.or.jp>) の更新、管理はこれまで事務局が行っていたが、2017年7月に「ホームページ運用内規」が理事会に承認され、会長が全体管理責任者となり事務局及び広報委員会が全体の更新責任者を務めると定めた。
- ・ 2017年11月、現在使用している作成ソフト WordPress のセキュリティ、運用サポート強化のために外部業者と契約し、セキュリティを確保した上で各委員会からホームページ更新責任者、更新担当者の参加を募り、各自での運用・更新を開始した。

- ・ 2017年12月、ホームページコンテンツ・プロジェクトは発足し、ホームページの改善要望・改良検討を行ってきた。
- ・ 2018年2月28日各委員会の「更新責任者・担当者説明会」を実施。
- ・ その後、3月末までに作成希望の委員会担当者にWordPressアカウントを発行、各委員会でのホームページ更新作業を開始した。

4. 研究会活動

4.1. 日本オンライン情報検索ユーザー会 (OUG)

実質3つの分科会で活動している。2017年度は前年度のOUG会員数を維持したが、2018年度には化学分科会が休会することになっており、会員の減少が心配される。ライフサイエンスと特許の2つの分科会については、安定した活動を続けているが、新規会員はほとんどない。新規会員の勧誘や参加者の増加策を講じてきてはいるが、新規入会者の情報や責任者連絡先、収支状況などがきちんと共有化されていないと言う課題は残されている。

4.1.1. 化学分科会

(主査：鈴木理加氏。4回開催)

①例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
355	2017-07-13	2016年度検索技術者検定 試験問題(2級前半)を解く	日本図書館協会会館会議室	2
356	2017-08-22	2016年度検索技術者検定 試験問題(2級後半、1級前半)を解く	日本図書館協会会館会議室	2
357	2017-10-17	J D r e a m III 最近のトピックス	日本図書館協会会館会議室	4
358	2018-03-29	2016年度検索技術者検定 試験問題(2級前後半、1級前半)を解く	日本図書館協会会館会議室	2

4.1.2. ライフサイエンス分科会

(主査：西内 史氏 9回開催)

①例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
349	2017-04-20	サービス紹介「JDreamIII」他(株式会社ジー・サーチ浅野 光太郎氏)	日本図書館協会会館	13
350	2017-05-18	サービス紹介 J S Tサービス：海外誌拡充および機械翻訳・自動索引、17シソーラス改訂他(JST情報企画部文献業務グループ 山崎文枝 他)	日本図書館協会会館	22

351	2017-06-14	ディスカッション：規制当局情報の入手についての情報・意見交換 サービス紹介： Citeline Suite、Biomedtracker、Datamonitor Healthcare、Pharma R&D Annual Review 2017（インフォーマ ファーマインテリジェンスアカウントマネージャー 松尾典彦氏他）	日本図書館協会会館	11
352	2017-07-20	サービス紹介：Cortellis を中心とする Life Science 関連データベースの紹介（クラリベイト・アナリティクス社） ディスカッション：ガイドラインがあるものの、用法用量が医師の判断に委ねられているバイアル製剤について実際に使用されている用量や患者数の調査方法について議論した。	日本図書館協会会館	12
353	2017-09-20	サービス紹介：－学术论文、特許分析ツールのご紹介（エルゼビア・レクシスネクシス）－SciVal（サイバル），PatentStrategies（パテントストラテジーズ）	日本図書館協会会館	16
354	2017-10-19	見学会：サイボウズ社見学会	サイボウズ株式会社 東京オフィス	10
355	2017-11-16	見学会： 東京慈恵会医科大学 施設見学（図書館・標本館・資料館）	東京慈恵会医科大学 学術情報センター	9
356	2018-01-18	サービス紹介： CAS RN ライセンスプログラム，STN の最新情報他 CAS RN ライセンスプログラム，CAS や JAICI の新製品紹介。 （化学情報協会 山道幸代 他）	日本図書館協会会館	12
357	2018-02-15	サービス紹介：AI を使った文献検索データベース、質的研究をサポートするソフトウェア紹介 Qinsight、NVivo （ユサコ株式会社 井手 孝次郎 他）	日本図書館協会会館	16

4.1.3. 特許分科会

（主査：綾部 裕美氏 11 回開催）

検索演習 7 回、講演会 4 回（8 月度休会）

本年度は、検索演習（無効資料調査、テーマ分析等）を中心に活動を行った。

4.2. 専門部会 (SIG)

特定の分野または専門技術に関心を持つ会員が自由に参加し研さんを積む場として以下の4つのグループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画して活動した。いずれの部会でもメンバーはほぼ固定であり、安定はしているが発展性に乏しいという問題がある。

4.2.1. 技術ジャーナル部会

(会員企業：12社。コアパーソン：持ち回り。6回開催)

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

4.2.2. パテントドクメンテーション部会

(会員：6名 コアパーソン：桐山 勉氏 毎月開催)

①INFOPRO2017において、1件の発表と1件のポスター発表を行った。

- ・【B41】 拡張知財情報科学者に3年以内になるにはどうするか。(担当者：桐山)

- ・【ポスター発表】 「図形商標検索システム」(担当者：川島)

②協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページにて、活動状況を(毎年複数回更新して) 継続公開した。

③外国専門誌による勉強：

- ・World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。 コアパーソンがWP I 専門誌の Editorial Advisory Board に2014年10月から就任したので、勉強会がしやすくなった。

④外部知的財産団体への協力；INFOSTA-PD 委員会に実行委員会1名参加

- ・会誌 情報の科学と技術 67(7)に、「IPI-ConfEX2017 および IPI-Award 受賞式に参加して」を報告。

- ・会誌 情報の科学と技術 67(7)に、「特許情報と人工知能 (AI) の総説」を寄稿。

⑤メンバー間のトピックス情報交換

- ・米国 PIUG2017、EMW2017、EPOPIC2017、PIAC2017 in China、 IPI-ConfEX2017 などの関連詳細情報をメンバー間で交換。これらのうち、米国 PIUG2017 に参加しプレゼン発表を行い、IPI-ConfEX2017 にも参加して一般プレゼンをしてきた。それらを当 PDG 部会にても詳細に報告した。

その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものの相互紹介など。

⑥プロバイダーデモ勉強会の実施

- ・IEEE と IP.com が開発した Innovation Q Plus の無料 ID を貸して貰い、デモ実施 (2017年8月部会にて)

- ・アイ・ピー・ファイン社の THE 調査力と Deskbee の無料 ID を貸して頂き、デモ実施 (2018年2月部会にて)

4.2.3. 分類／シソーラス／Indexing 部会

(コアパーソン：山崎久道氏 11 回開催)

①例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
331	2017-04-21	索引事例の分析方法等の検討	文京シビックセンター	10
332	2017-05-19	索引事例の紹介と討議	文京シビックセンター	13
333	2017-06-16	索引事例の紹介と討議	文京シビックセンター	12
334	2017-07-21	索引事例の紹介と討議	文京シビックセンター	10
335	2017-09-15	UDC Update at IFLA Wroclaw の報告 索引評価項目の検討 (1)	文京シビックセンター	13
336	2017-10-20	索引評価項目の検討 (2)	文京シビックセンター	12
337	2017-11-17	UDC Seminar 2017 の参加報告	文京シビックセンター	12
338	2017-12-15	索引評価項目の検討 (3)	文京シビックセンター	9
339	2018-01-26	索引評価項目について討論とグループピング	文京シビックセンター	10
340	2018-02-16	グループピングした項目の文章化方法検討	文京シビックセンター	7
341	2018-03-16	IS025964-2 : 2013 の検討	文京シビックセンター	13

②今年度は、メインテーマとして、前年度からの継続で、本の索引（通常、巻末に付いている）の品質評価のための研究を具体化し、本の索引に求められる事項とその質について、事例を中心に討論を行った。さらに、その内容をもとに、本の索引作成のためのチェックリスト(簡単な手引きのようなもの)を作成することを目指している。

③メインテーマ以外に、適時、インデクシング分野の最近の話題について、紹介してもらい、討論した。

4.2.4. ターミノロジー部会

(部会員：9名 コアパーソン：長田孝治氏 年6回開催)

設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催であるが、2017年度は3回の実施に留まった。

①例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
81	2017-06-09	「ターミノロジー基本用語集」の作成	文京シビックセンター	8
82	2017-09-29	「ターミノロジー基本用語集」の作成	協会会議室	6
83	2018-02-23	ISO TC37 ウィーン総会の参加報告	協会会議室	8

4.3. 3 i 研究会

①委員会開催状況

第5期の活動は、2017年9月～2018年3月までの半年間とし、月1回（基本的に、東京：第2木曜日、大阪：第3火曜日）にリーダー会議および全体会合を実施した。

第5期のグループ編成は、東京3グループ、大阪1グループである。

②活動状況

(1) 第5期中間進捗報告：2018年1月11日、東京地区の中間進捗報告会を実施した。

各グループの研究テーマは、以下のとおりである。

東京A 先端技術トピックにおける技術動向および技術動向予測

東京B 工業技術による1次産業の高収益化

東京C 企業数社を対象とした技術情報を用いたコア技術の特定手法開発

大阪A 独居老人の屋外行動監視における新技術・サービスの提案

*研究の進捗に応じて、テーマ名は変更しており、現在のテーマ名とは少し異なる部分がある。

(2) INFOPRO での発表

2017年11月30日に、第4期活動の成果を INFOPRO セッションA1にて下記のテーマで発表した。

A11 知財部員が取り組む「知財デュエリジェンス実務」の検討

A12 新規事業参入事例のベンチマーク分析

A13 成熟市場を活性化させる KANSEI Value の可能性

A14 AR・知育分野における新規事業創出

A15 段階的発想法による用途探索

(3) 会誌への掲載

AR・知育分野における新規事業立案に関する研究. 会誌. 2017, 67(3), 119.

第4期の活動成果は、2018年度も4月号より、順次1テーマずつ会誌へ掲載する予定。

(4)第5期 最終報告会

2018年3月8日、13時～17時 東京・大阪両会場を Skype で繋ぎ、合同報告会を開催した。

(5)第6期の計画

2018年2月15日に企画会議を開催し、第6期は2018年6月から2019年3月までの期間とする事を決定した。2018年5月15日に、参加募集のガイダンスを行う予定。

(6)第5期の成果発表

INFOPRO (2018年7月13日)にて、第5期の研究成果を口頭発表予定。

第5期の成果は会誌に掲載すると共に、その他の学会、研究会の場においても成果を積極的に発表する事を促す。

5. 調査・受託事業

5.1. ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務

国際標準化機構 (ISO) の「情報とドキュメンテーション」(TC46)及び「専門用語及び他の言語、情報内容の資源」(TC37)に関する国内委員会業務を、2013 年度より担当した。TC37、TC46 は、共に(株) 三菱総合研究所からの委託により実施した。

(1) ISO/TC37 国内委員会

本委員会(石崎俊委員長)の下に、SC1(専門用語作成の原則と手法)、SC2(用語辞書編纂方法)、SC3(用語、情報、内容の管理システム)、SC4(言語資源マネジメント)、SC5(翻訳、通訳及び関連技術)の5つのSC国内委員会を置き、総会(2017年6月、ウィーン)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(45件)等を実施した。

本年度は、①文書コンテンツ標準化新規提案の具体化、②制限言語の基本原則に関する国際標準の新規提案の具体化、③制限言語の応用分野における国際標準の新規提案の準備を実施した。

(2) ISO/TC46 国内委員会

本委員会(宮澤彰委員長)の下に、SC4(技術的相互運用性)、SC8(品質—統計及び性能評価)、SC9(識別と記述)、SC11(アーカイブズ/記録管理)の4つのSC国内委員会を置き、総会(2017年5月、プレトリア)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(37件)等を実施した。

日本から提案した ISO 20247「国際図書館資料識別子」が、12月に発行された。TC46 分野では、日本提案で作成された初めての国際標準である。

5.2. その他の委託業務

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) から「平成 28, 29 年度調査業務報告書作成のための現況動向調査、及び報告書作成業務」の調査委託を受け実施し、3月に納品を行った。内容は、オープンサイエンスについての調査と分析である。

6. 関連団体との連携

① 会員としての加入

- ・一般財団法人機械振興協会協賛会員 (継続)
- ・国立研究開発法人科学技術振興機構賛助会員 (継続)
- ・東京商工会議所賛助会員 (継続)

② 他団体との共催

なし

③ 他団体から協力・後援を受けたもの

情報プロフェッショナルシンポジウム (INFOPRO2017) に対して、国立研究開発法人科学技術振興機構から協力、専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報経済社会推進協会、日本図書館協会、国立国会図書館、公益社団法人日本図書館協会、情報メディア学会、日本特許情報機構、情報知識学会から後援を受けた。

④ 他団体に後援、協賛したもの

- ・ 平成 29 年度専門図書館協議会全国研究集会(専門図書館協議会) (2017-06-29・30)
- ・ 特許検索競技大会 2017((一財)工業所有権協力センター) (2017-09-02)
- ・ INFOMATES 研究会 (2017-06-16)
- ・ 知財情報フォーラム (IPI-Forum) (2017-06-20, 2017-10-24, 2018-01-23)
- ・ TP&D フォーラム 2017 (TP&D フォーラム実行委員会) (2017-08-26・27)
- ・ 第 103 回全国図書館大会 (2017-10-12・13)

これらについては、会誌に広告を掲載する他、投稿があれば開催報告を会誌に掲載している。また当協会のビラ配布も適宜依頼している。

7. 事務局

事務局長	光富 健一	総括、ISO 関連受託事業、会誌編集委員会
担当	鈴木 吉之	各種委員会、INFOPRO シンポジウムの運営、検索技術者検定の試験実施、メルマガ発行、ホームページ維持管理
担当	木村かな子	経理
担当	廣田みどり	会誌編集管理

- ・ 会員管理、購読者管理、書籍販売事務 (株) 毎日学術フォーラムに委託
- ・ 会誌編集事務 昭和情報プロセス (株) に委託
- ・ シンポジウム運営サポート (株) ディック・アルファに委託
- ・ 試験会場運営 一部 (株) 全国試験運営センターに委託
- ・ 会計業務 アスト税理士法人 (AST) に委託
- ・ ホームページ (システム契約、WordPress サイトマネジメント保守) タイニービット (有)

以上